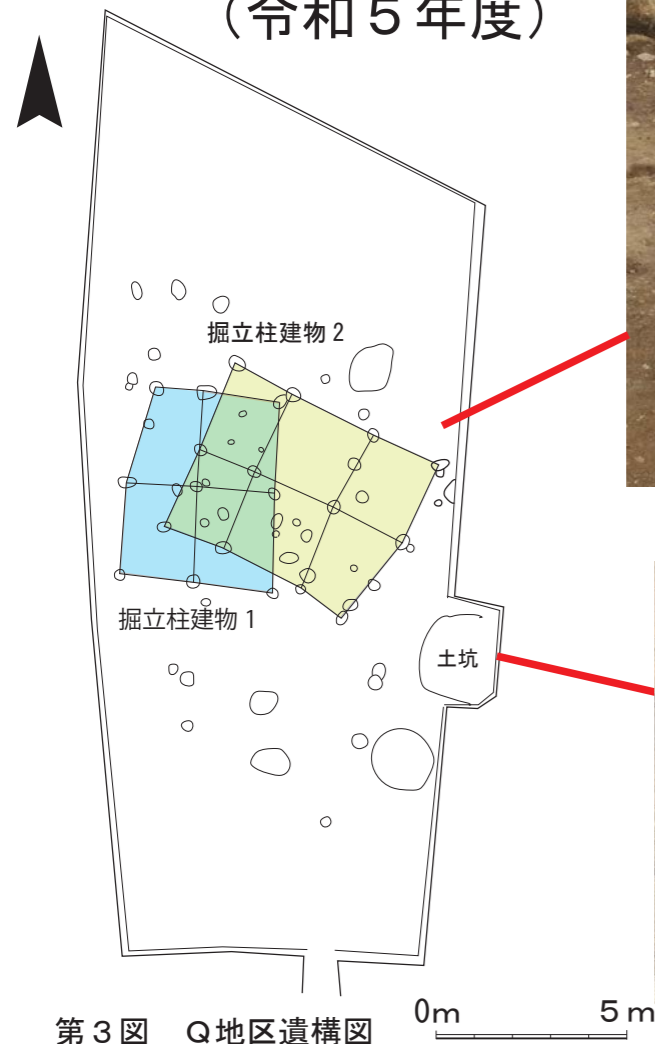


第10次調査 Q地区 (令和5年度)



掘立柱建物1・2 検出状況 (西から)



土坑 遺物出土状況 (東から)

Q地区で掘立柱建物2棟が見つかりました。また、H・I地区と同じく礫の廃棄土坑や瓦器椀・土師器皿が出土する土坑が見つかりました。13世紀末頃の土器が出土しているため、H・I地区よりさらに北西側へ居住地を移したと考えられます。

また、P地区では近世(江戸時代後期)以降に土地の利用があったことを確認しました。

まとめ

これまでの調査によって、井手遺跡の集落の様子が明らかになりました。11世紀後半頃から人々が居住し始めたこと、それから約200年をかけて少しずつ北西方向の高い土地へ居住地を移したことがわかりました。また、礫の廃棄や流路の整備など、住みやすくするための環境整備を行っている点も興味深いところとなりました。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた方々に、心よりお礼を申し上げます。

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

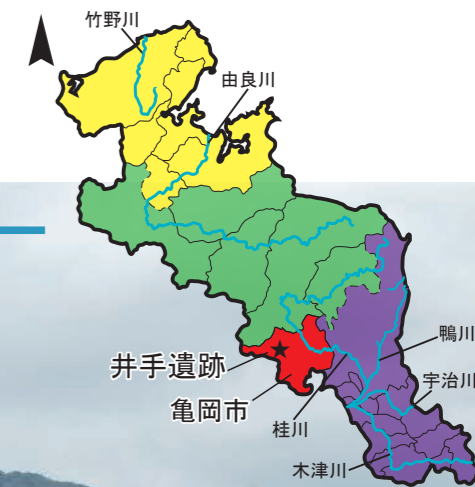
西暦	時代	検出遺構
250	旧石器時代	
	縄文時代	
	弥生時代	
	古墳時代	
500	飛鳥時代	B-2 井戸1 B-2 井戸2 B-2 掘立柱建物1
	奈良時代	
	平安時代	
	鎌倉時代	
1185	南北朝時代	H 掘立柱建物1ほか Q 掘立柱建物1・2
	室町時代	
	安土桃山時代	
1333	中世	
	江戸時代	
1603	近世	
	近代	

京埋セ現地説明会資料 23-2
令和5年9月23日(土・祝)

井手遺跡 第6・7・10次調査

調査場所 亀岡市本梅町西加舎地内
調査期間 第6次:令和3年5月18日~令和4年2月24日
第7次:令和4年5月17日~令和5年3月6日
第10次:令和5年5月6日~令和5年9月末(予定)

調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



井手遺跡は、古代から中世にかけての集落遺跡です。近隣では、平成30年度に亀岡市教育委員会の発掘調査によって、平安時代末の掘立柱建物などがみつかりました。当調査研究センターでは、令和3年度から発掘調査を実施しています。

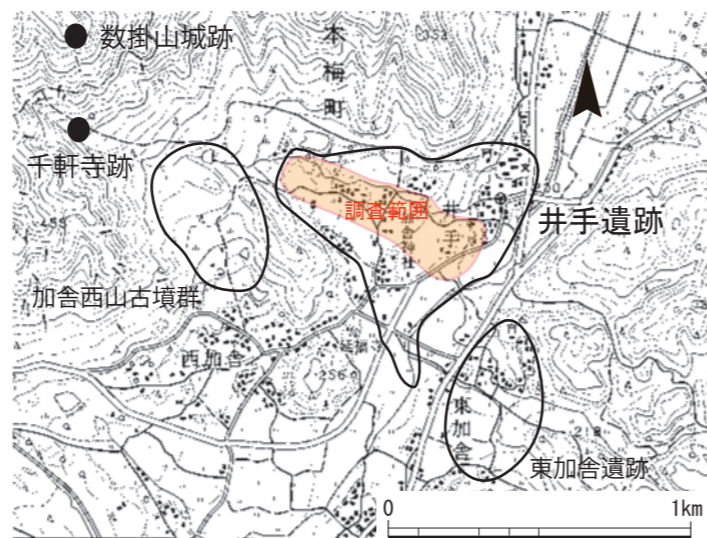


空中写真 (北東から)

はじめに

今回の調査は、国営農地再編整備事業に伴って行ったものです。今年度はN・O・P・Q地区の調査を実施し、掘立柱建物や土坑などが見つかりました。

令和3年度から行っている調査で、掘立柱建物や井戸・土坑・溝などが見つかり、古代末から中世後期にかけての集落の様子が明らかになりました。

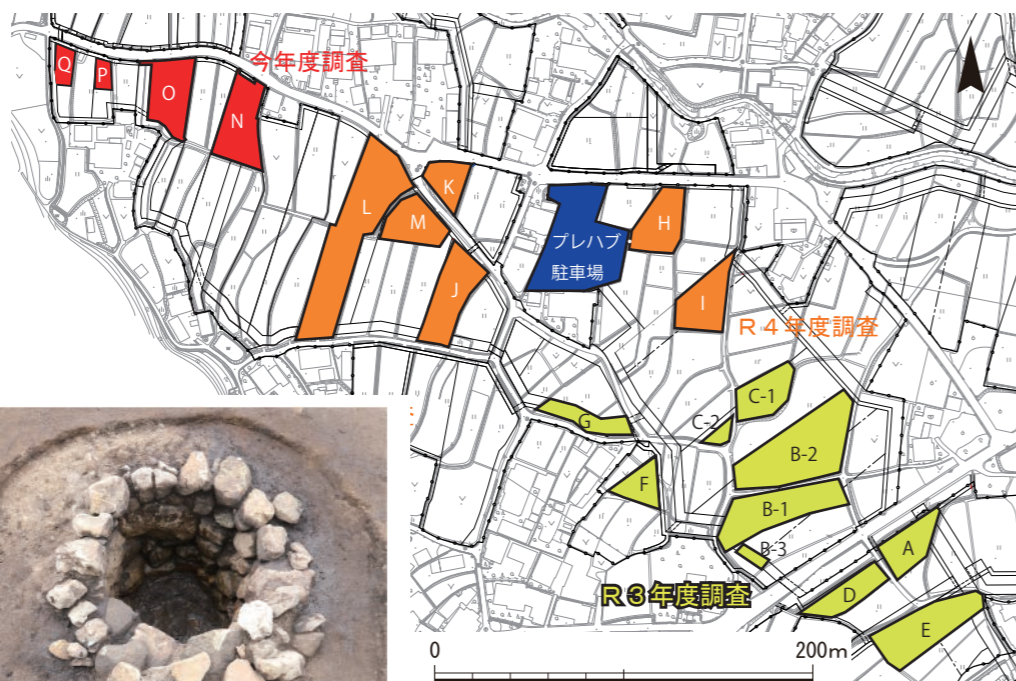


第1図 本梅町内遺跡調査地位置図 (S=1/25000)

第6次調査 B-2地区 (令和3年度)



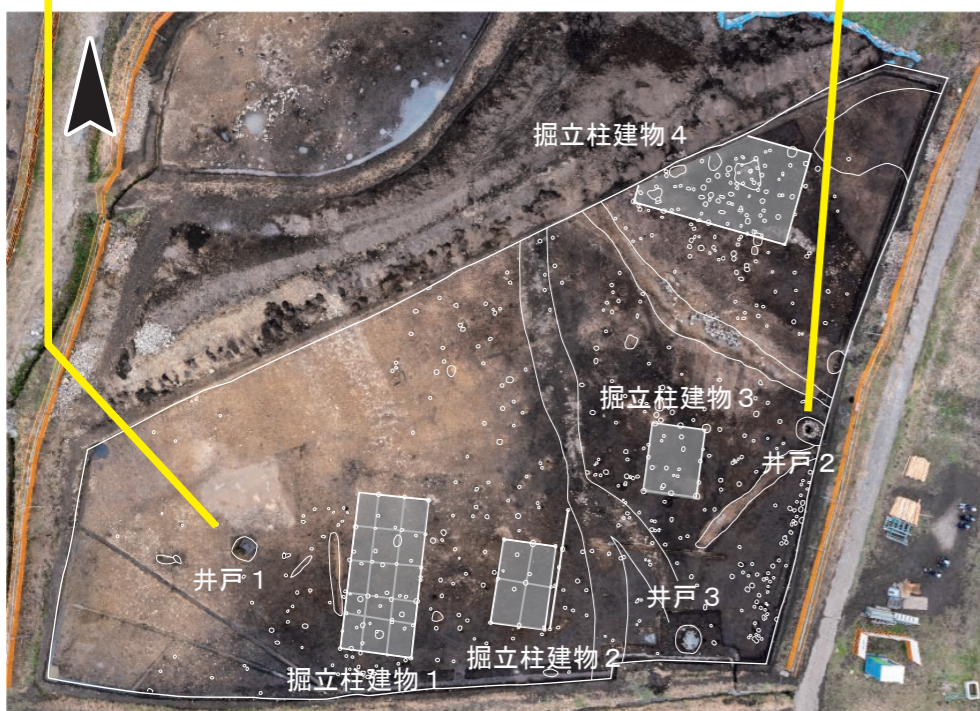
井戸1 (南から)



第2図 井手遺跡 トレンチ配置図



井戸2 石組井戸 (東から)



B-2地区 検出遺構 (上が北)

B-2地区で、掘立柱建物4棟、井戸3基 (石組・素掘り・木組各1基)、その他、柱穴・溝などが見つかりました。

木組の井戸1の中から、11世紀後半頃の黒色土器が出土していました。掘立柱建物の柱穴や、石組の井戸2から12世紀初めから半ば頃の瓦器椀や土師器皿が出土しており、平安時代後期から鎌倉時代にかけての集落跡であったことが推定されます。

第7次調査 H・I地区 (令和4年度)



掘立柱建物1 (南から)



(上が北)



土坑 遺物出土状況 (東から)



礫の廃棄土坑 (南から)



柱跡から出土した土器

土師器皿と瓦器椀

瓦器椀

H・I地区で、掘立柱建物5棟が見つかり、建物の柱穴の中から12世紀末から13世紀前半の瓦器椀や土師器皿が出土しました。H地区の掘立柱建物1・2は13世紀前半頃の建物で、I地区の3～5は12世紀末頃の建物になります。また、直径3mほどの土坑にこぶし大以上の大きさの礫が詰められた遺構が複数あり、開発時に掘り出された礫をまとめて廃棄した土坑と考えられます。B-2地区の調査で見つかった集落が廃絶してから数十年後に、新たな集落を形成したようです。